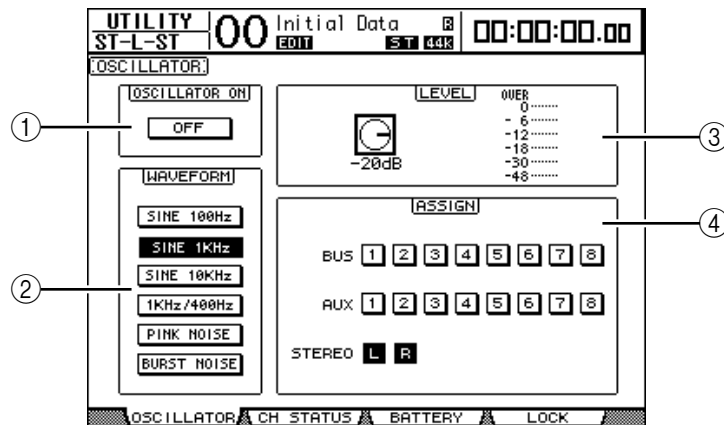


オシレーターを使う

DM1000 にはサウンドチェック用のオシレーターが内蔵されています。オシレーターの利用方法は次のとおりです。

- 1 DISPLAY ACCESS セクションの[UTILITY]キーを押し、続いて[F1]キーを押します。UTILITY 画面の OSCILLATOR ページが表示されます。



各項目の内容は次のとおりです。

- ① OSCILLATOR フィールド
オシレーターのオン / オフを切り替えます。
 - ② WAVEFORM フィールド
オシレーターの波形を選択します。
 - ③ LEVEL フィールド
オシレーターの信号レベルを設定します。
 - ④ ASSIGN フィールド
オシレーターの送り先を選択します。
- 2 ASSIGN フィールドでオシレーターの送り先となるチャンネルのボタンにカーソルを合わせ、[ENTER]キーを押します(複数選択可)。
 - 3 WAVEFORM フィールドの中から利用したい波形に相当するボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
各ボタンに対応する波形は次のとおりです。
 - ・ SINE 100Hz ボタン100Hz のサイン波
 - ・ SINE 1kHz ボタン1kHz のサイン波
 - ・ SINE 10kHz ボタン10kHz のサイン波
 - ・ 1kHz/400Hz ボタン L/R、奇数 / 偶数バスに周波数の異なるサイン波を出力
 - ・ PINK NOISE ボタン ピンクノイズ
 - ・ BURST NOISE ボタン ..バーストノイズ(4 秒間隔で再生される 200 ミリ秒のピンクノイズ)
 - 4 LEVEL フィールドのノブにカーソルを合わせ、パラメーターホイールを使ってオシレーターの信号レベルを絞りきります。

ノート: サイン波やピンクノイズは、聴感上より実際の音圧が高い信号です。大音量で再生するとスピーカーなどの再生装置に悪影響を与える場合がありますので、オシレーターを利用するときは必ず信号レベルを絞りきった状態から徐々にレベルを上げてください。

DM1000ブロックダイアグラム

